

Petit Salon du Kansai Vol. 4

第4回

プチ・サロン・デュ・カンサイ

La Puissance de la Voix

(うたごえの力):

声楽家が ^{いざな}誘う魅惑の

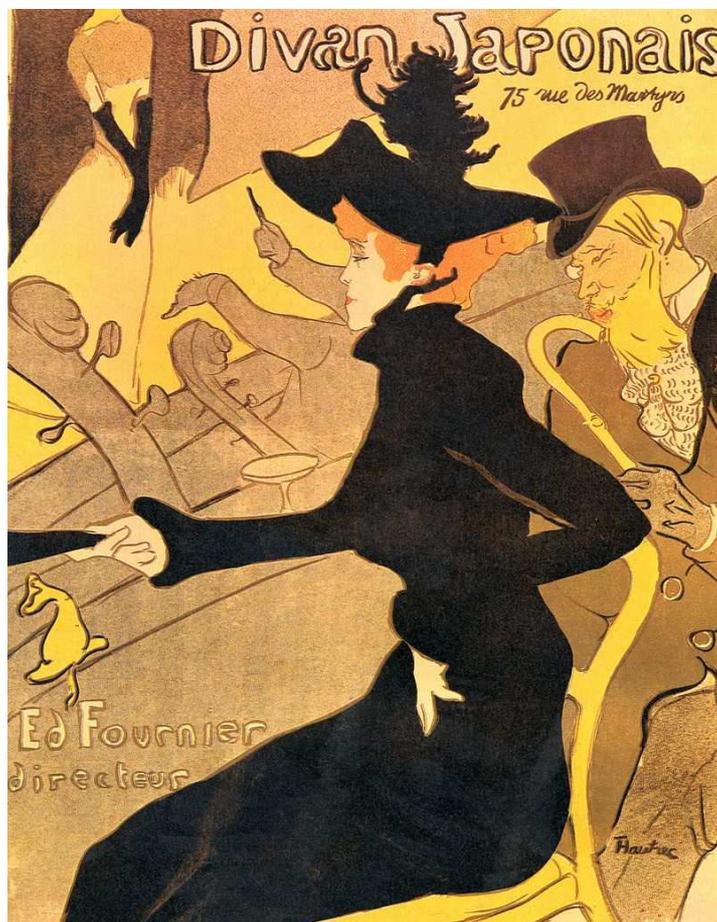
「声」の世界

とき：2015年12月5日(土)
PM2:00~4:00
(開場 PM1:30)

ところ：関西ピアノ専門音楽学校内
ショパン・ホール

会費：1名 前売¥1,500
(ワイン・ドリンク・菓子等 込)
当日¥1,800
(ワイン・ドリンク・菓子等 込)

主催：関西ピアノ専門音楽学校



本日の出演者（敬称略）



角地 正直 (Masanao KAKUCHI)

大阪音楽大学音楽学部声楽学科卒業、グリフィス大学クイーンズランド音楽院修了。2006年度日仏音楽コンクール2位入賞。第12回太陽カンツォーネ・コンコロソ1位優勝。第42回イタリア声楽コンコロソ入選。『カルメン』ドン・ホセ役や『夕鶴』とひょう役など、オペラでも活躍。ソリストとして、関西フィルハーモニー管弦楽団、大阪シンフォニー交響楽団、ウィーンフィルハーモニー等と共演。

中井 祥子

(Shoko NAKAI)

相愛大学音楽学部声楽専攻卒業、同大学専攻科修了。

2013年ブルガリアにてソフィア国際音楽祭にソリストとして出演。ソフィアフィル管弦楽団と共演。2014年万里の長城杯国際音楽コンクールにて第三位授賞。ルビーノ音楽事務所 代表ルビーノ音楽教室 運営（大阪 豊中市/西宮・芦屋校準備中）。



(PIANO)



南 なほき (Nahoki MINAMI)

相愛大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。同大学卒業演奏会、和歌山県および堺市の新人演奏会に出演。KOBE 国際学生音楽コンクール審査委員長賞を受賞。ピティナヤングピアニストコンペティションG級西日本大会第2位。全日本ソリストコンテスト入選。大阪シンフォニカー交響楽団、ブルガリア国立室内オーケストラ、ルーマニア国立オーラディア交響楽団と共演の他多数のコンサートに出演。大阪新音フロイデ合唱団など、多くの合唱団でピアニストを務める。子どもからシニアの方まで、幅広い層にそれぞれ適したプログラムを持っています。

※（案内・司会）^{やまだ りょう}山田 良 京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程後期課程単位修了。専門は演劇（日／英／仏）研究・比較文化研究。研究活動と共に、京都大学・同志社大学にて英語・英文学科目を担当。現在、関西ピアノ専門音楽学校校長代理兼事務局長／日仏音楽協会＝関西事務局理事長代理兼事務局長。

第 1 部

① **Caro mio ben** 作曲: Tommaso Giordani (1730—1806)

Caro=いとしい Mio=私の Bene=恋人 【歌詞大意】愛しい人よ、私を信じて、つれなくしないでくれ。

② **魔王 Erlkönig** 作曲: Franz Peter Schubert (1797—1828) 詩: ゲーテ

シューベルトの友人シュパウンの回想によると→

1815年11月16日、シューベルトはある本のなかの魔王の詩を朗読しながら、興奮していた。本を手に行ったり来たりしていたが。突然坐りこんだかと思うと、ごく短時間のうちにすばらしいバラードが紙に書きつけられた。シューベルトはピアノを持っていなかったで、われわれはこの楽譜を手に神学校へ走って行った。『魔王』はその日の夕方うちに神学校で歌われ、興奮で迎えられた。

③ **Ombra mai fù / 優しい木陰よ** 作曲: Georg Friedrich Händel (1685—1759)

歌劇「セルセ」の中のアリアの一つ、元々カストラートの為に作曲された。

④ **Piangerò, la sorte mia / 我が運命に涙する**

歌劇「ジュリアス・シーザー」より (初演は1724年)。クレオパトラが絶望して歌うアリア。

【歌詞大意】この胸に息のある限り、これほど過酷で非常な運命に私は涙を流すことでしょう。

⑤ **Lascia ch'io pianga / 私を泣かせて下さい**

歌劇「リナルド」より 【歌詞大意】自由を渴望し叶わぬ残酷な運命よ、私は慈悲のために祈ります。

⑥ **Die Forelle / ます** F・P・シューベルト(1797—1828) 1817年初演 詩: C・F・D・シューバルト

3番からなる有節歌曲。美しい川で元気に泳ぎ回る鱒を、罾にかけて釣り上げようとする釣り人の様子を歌っている。歌曲では省略された4番には「男はこのようにして女をたぶらかすものだから、若いお嬢さんは気をつけなさい」と書かれている。

⑦ かごかき 作詞・作曲：貴志 康一（1909—1937） 1934 年作曲

P.2

大阪の籠かきが、客を乗せて大阪の名所を回るさまを歌った歌。ドビュッシーなど印象派を思わせる斬新な和音が使われている。

⑧ Hotel 作曲：F・Poulenc 詩：アポリネール

場末の小さなホテルのアンニュイな男がするただ1つの望み、それは太陽の光をレンズで集めて煙草に火をつけること。非常にプーランク的(フランス的)な響きが特徴の名曲。

⑨ Après un rêve / 夢のあとに 作曲：G・フォーレ(1845—1924) 詩：R・ビュシーヌ

【歌詞大意】君の姿に魅了され燃え立つ幻のような幸福を私は夢見ていた…しかし悲しき夢の目覚め、再び戻れ輝きよ。いま一度帰りに来たれ 神秘なる夜よ

⑩ からたちの花 作曲：山田耕筰(1886—1965) 詩：北原白秋 初演 1925 年

耕筰は幼い頃養子に出され、活版工場で勤労しながら夜学で学んだ。耕筰は自伝において、工場でつらい目に遭うと、からたちの垣根まで逃げ出して泣いたと述懐している。この歌は耕筰のこの思い出を白秋が詞にしたものである。

第 2 部

① La Ricordanza / 追憶 作曲：V・Bellini（1801—1835） 1834 年作曲

ベルカントオペラを代表する3人の作曲家、ロッシーニ、ドニゼッティ、ベルリーニ、イギリスの産業革命を経て時代が激変し、音楽への嗜好も変わっていく中、古き良き“ベルカント”の最後の火とも云える名曲。ベルリーニはこの楽譜の冒頭にこう書いている。「この曲においての伴奏はレガートかつ、ピアノで弱音ペダルを使って弾かなければならない」

② Qui la voce sua soave / あなたの優しい声が 1835 年作曲

歌劇「清教徒」より エルヴィラのアリア 上記の“追憶”からメロディを引用。

【歌詞大意】あの方の優しい声が、ここで誠実であると誓ったあの声は消えてしまった。あなたのエルヴィラの元に戻って下さい。私は涙し、あなたに恋焦がれています…

③ *Una furtiva lacrima* / 人知れぬ涙 作曲: G・Donizetti (1797—1848) 初演 1832 年

歌劇「愛の妙薬」より ネモリーノのアリア

想いを寄せていたアディーナが人知れず流した一条の涙、その涙が自分のために流れたことを知り、喜びの中歌う。

④ *Là ci darem la mano* / お手をどうぞ W・A・Mozart (1756—1791) 初演 1787 年

歌劇「ドン・ジョヴァンニ」より 二重唱

結婚式当日の村娘のゼルリーナに、「僕なら君の運命を変えられる」と求愛する 2 重唱

曲中の歌詞、Andiam(アンディアーム)(意は一緒に行こう、英語では Let's go)に注目して聞いて下さい。

⑤ *Un di, felice* / ある日幸せにも G・Verdi (1813—1901) 初演 1853 年

歌劇「椿姫」より 二重唱

あるパーティで募る思いを告白したアルフレードにヴィオレッタは「私を随分前から好きでいてくださったの？」と尋ねます。アルフレードは「一年前、幸せにも天上の人とも思える貴女が稲妻のように僕の目の前に現れたのです。そして心ときめいたあの日から、その愛は全宇宙の鼓動であり気高く、この心は苦悩しながらも喜びに溢れています」

⑥ *Vissi d'arte vissi d'amore* / 歌に生き、愛に生き G・Puccini (1854—1924) 初演 1900 年

歌劇「トスカ」より トスカのアリア

捕えられた恋人の解放と引き換えに、警視総監から関係を求められた主人公トスカが、絶望と悲しみの中でこの『歌に生き、愛に生き』を歌い上げる。

⑦ *Nessun dorma* / 誰も寝ては鳴らぬ 初演 1926 年

歌劇「トゥーランドット」より カラフのアリア

稀代の名曲(流行歌)シューベルトの名曲もそうですが、発表当時、人々がメロディを口ずさんでいた と云う記録が残っています。

⑧ O soave fanciulla / 麗しの乙女よ 初演 1896 年

P.4

歌劇「ラ・ボエーム」より 二重唱

オペラがより演劇的になっていった時代。歌詞が、より登場人物の台詞として扱われている。

⑨ Tonight / トウナイト L・Bernstein (1918—1990) 初演 1957 年 1961 年映画化

ミュージカル「ウエストサイドストーリー」より 二重唱

別名をバルコニーシーンと呼ばれるこの場面、まさにロミオとジュリエットがバルコニーで愛を確かめ合うシーンを彷彿とする。

⑩ Maria / マリア

同じくウエストサイドストーリーよりトニーのARIA

ありふれた名前“マリア” その何でも無い名前が彼女の名前と分かったその瞬間から特別な物になったと歌う。この曲中、実に 25 回「マリア」と歌う。

⑪ Glitter and be gay / 着飾って浮かれましょ 初演 1956 年 改訂完全版 1989 年

ミュージカル/オペラ/オペレッタ「キャンディード」より クネゴンデのARIA

名家に生まれなにも不自由なく育ったグネゴンデ、戦災に巻き込まれ、身を落とし世界を彷徨い、その後社交界で成功します。このARIAはそのグネゴンデが、前半では自分の悲運なこれまでを嘆き、後半では今の金にあかせた生活を、心から喜び歌います。

⑫ Time to say goodbye / 君と旅立とう 作曲:F・Sartori (1957—) 初演 1995 年

元来、イタリアで“Con Te Partirò”というタイトルでサンレモ音楽祭にて発表されるが翌年、サラ・ブライトマンの申し出によりデュエットとしてポチェリとのデュエットとして改名され、世界的ヒットとなる。クラシック歌手とポップス歌手が手を取り合うクラシカル・クロスオーバーというジャンルの先駆けとなった曲。